

2006年認定看護師新規認定者 活動状況調査結果

【調査概要】

1. 目的

2006年新規認定者の活動の動向を把握することを目的として行いました。

2. 対象

2006年に新たに認定された認定看護師 757名（表1）

表1 2006年新規認定者の分野別内訳

認定看護分野（*初回審査）	合格者数
救急看護	67名
創傷・オストミー・失禁（WOC）看護	97名
重症集中ケア	49名
ホスピスケア	119名
がん性疼痛看護	39名
がん化学療法看護	32名
感染管理	143名
糖尿病看護	27名
不妊看護	12名
新生児集中ケア	26名
透析看護	21名
手術看護	32名
*訪問看護	17名
*乳がん看護	20名
*摂食・嚥下障害看護	31名
*小児救急看護	15名
*認知症高齢者看護	10名
合計	757名

3. 時期

2006年7月6日～7月15日

4. 調査事項

認定看護分野における活動の動向、教育課程在学中の処遇 等

5. 調査の方法

調査票の配布及び回収は郵送により行いました。

6. 調査票の回収状況

配布数 757部 回収数 757部（内訳は表1）

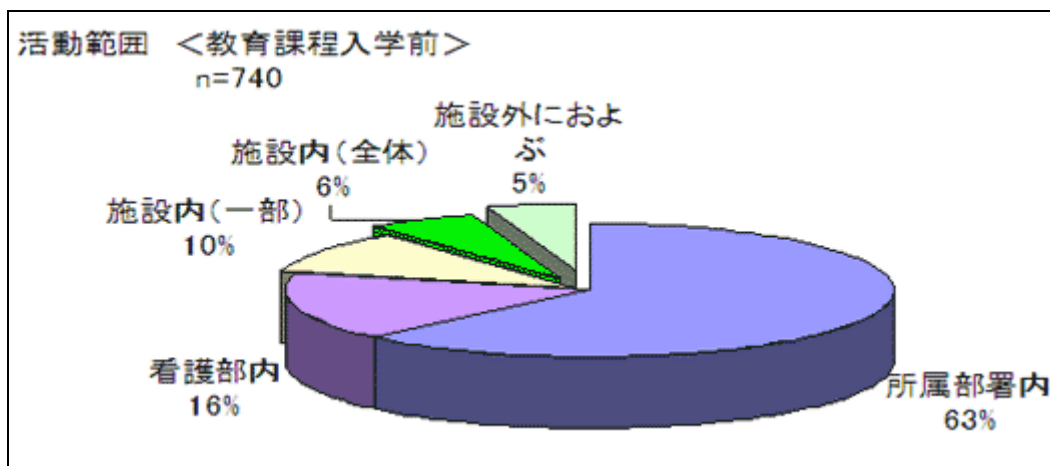
回収率 100%

掲載データは認定看護師教育課程の入学前と修了後（2006年4月時点）、資格取得後（2006年8月時点の予測）についての回答を一部抜粋しています。

【活動範囲】

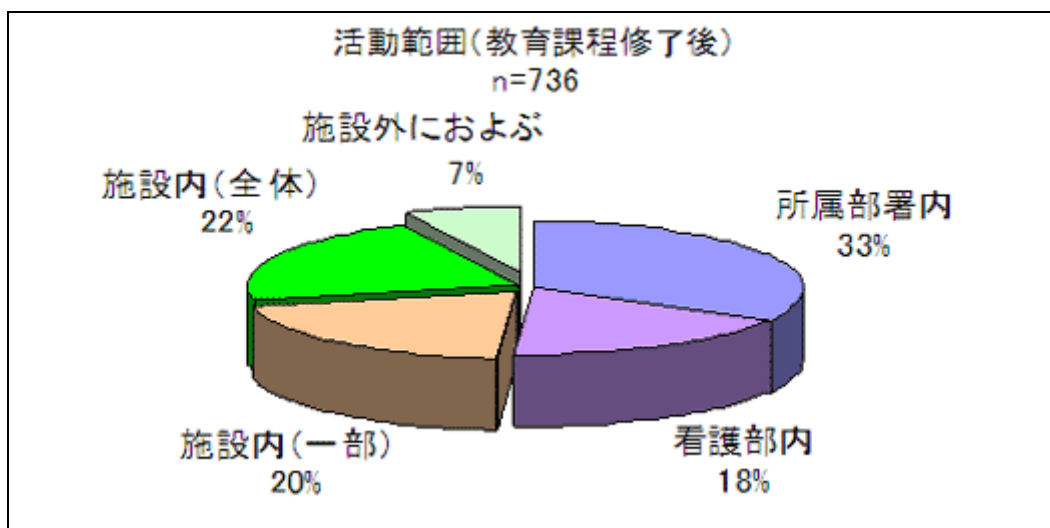
認定看護分野に関する活動(実践・指導・相談)の範囲は、教育課程入学前には回答者の63%が所属部署内に限られていました【図1】。

【図1 教育課程入学前の活動範囲】



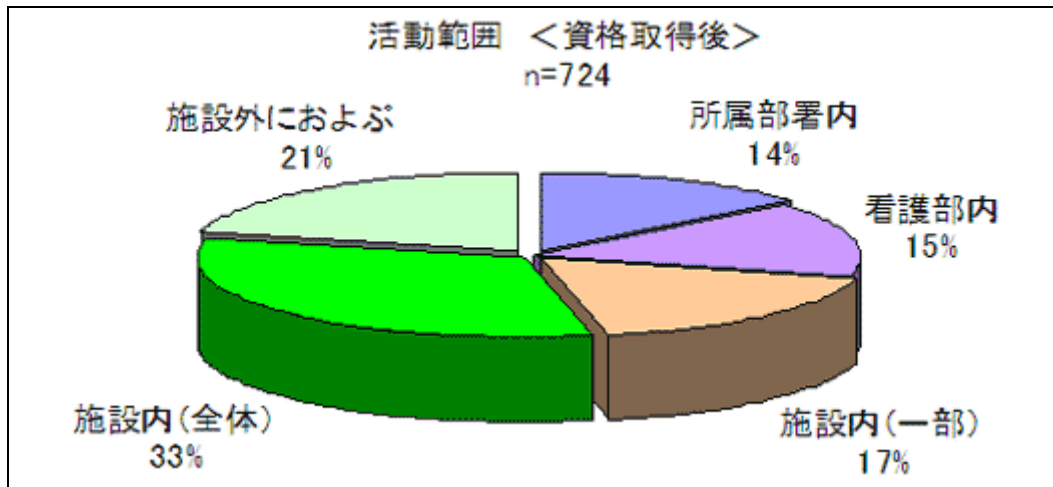
修了後は、所属部署内が33%となり、活動が施設内全体におよぶ場合は全体の22%に増えました【図2】。

【図2 教育課程終了後の活動範囲】



さらに、資格取得後の予測される活動範囲は、所属部署内が14%、施設内全体が33%と入学前に比較して5.4倍に増え、所属部署にとどまらず活動の影響は施設内全体へ寄与する可能性がうかがえます【図3】。

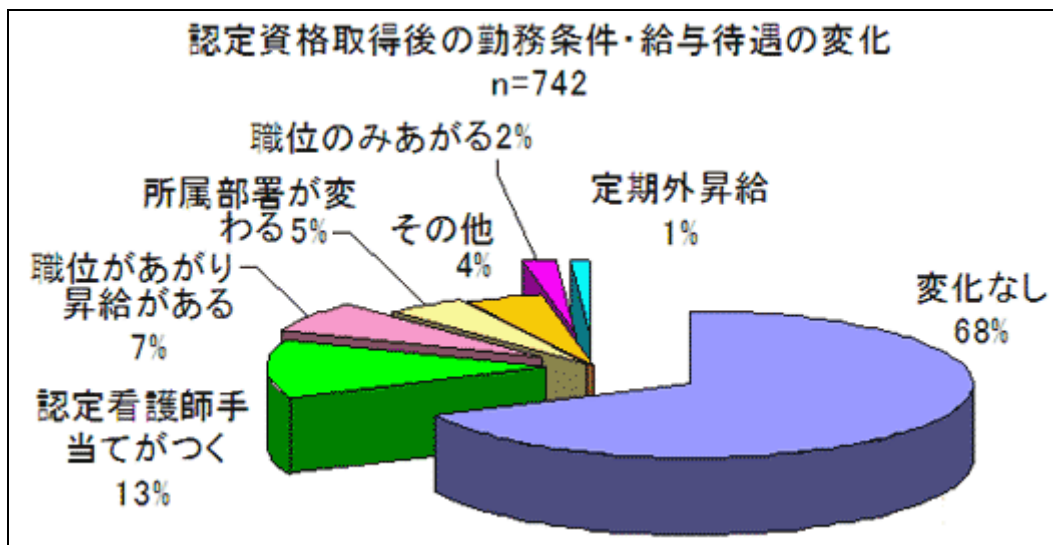
【図3 教育課程終了後の予測される活動範囲】



【職位と処遇】

認定資格取得後の勤務条件・給与待遇の変化をみると、約27%に「職位があがる」場合、「昇給」や「認定看護師手当」などの処遇の変化が認められる。所属部署が変わる5%の中には、病棟などでの勤務配置から「認定看護師としての独立したポジション」に配置される場合(15名/741名中)のように認定看護師の役割を施設内に広範囲に発揮しやすい立場への移動があります。一方、認定看護分野に関連した部署からあまり関連のない部署への配置も一部に認められます【図4】。

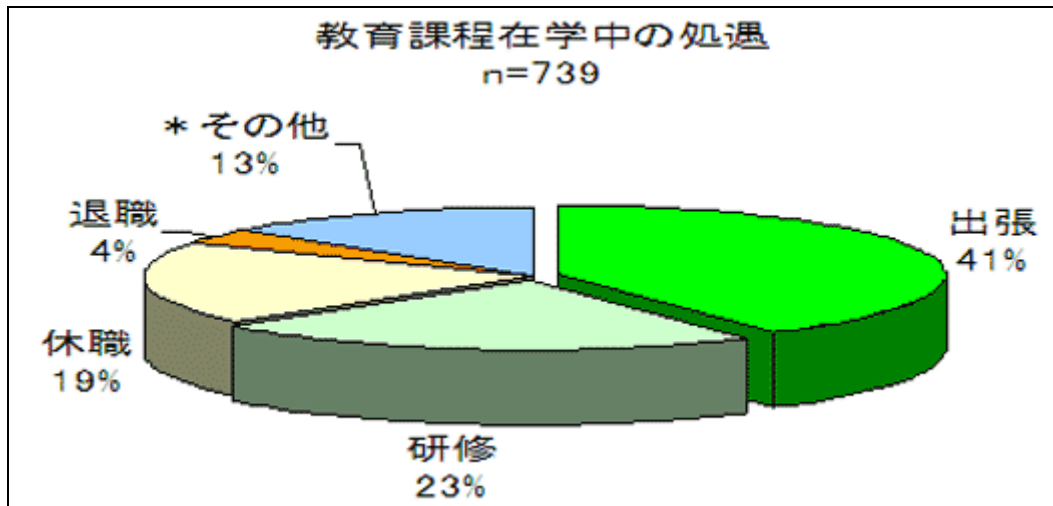
【図4 認定資格取得後の勤務条件・給与待遇の変化】



【資格取得後】

教育課程在学中の処遇は、全体の約41%が出張、23%が研修であり【図5】、その場合も給与は基本給や賞与が全額保障されていない場合もありますが、大多数は保障されています【図6】。休職の場合は、ほとんどが無給です。処遇の「*その他」【図5】には、分散型(実習期間を除き開講日は週2日)教育課程在学中の「開講日を除き通常勤務」約50名が含まれています。

【図5 教育課程在学中の処遇】



【図6 教育課程在学中の処遇(給与)】

